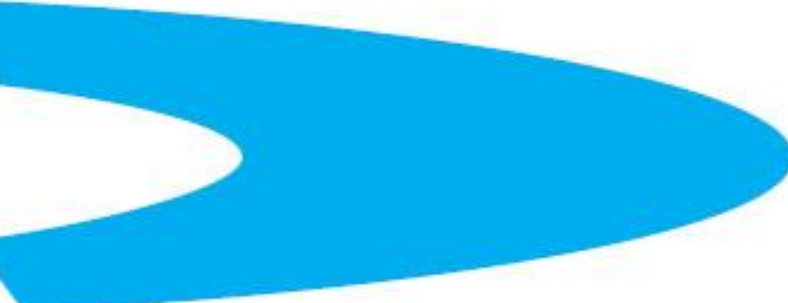


CG-ARTS協会の検定と質の保証

公益財団法人 画像情報教育振興協会
事務局長 宮井あゆみ



CG-ARTS協会は1991年に発足、
1992年に文部省認可の財団法人として活動を本格化、
2012年に公益財団法人に移行し、現在に至ります。

「人材育成」と「文化振興」の2つの事業を行っています。

検定は「画像情報技能検定CG部門」として1993年に
文部省に認定され、現在は5種類の検定を後援頂いて
います。

.....

役員&職員等 約50名

<http://www.cgarts.or.jp/outline/riji/index.html>

協会委員 約300名

賛助会員 69社

<http://www.cgarts.or.jp/outline/enterprise/index.html>

認定教育校 185校

<http://www.cgarts.or.jp/certification/map/index.html>

Education

1

出版



CG-ARTS協会発行テキスト

Education

2

検定



試験会場

- マルチメディア検定
- CGクリエイター検定
- Webデザイナー検定
- CGエンジニア検定
- 画像処理エンジニア検定

Education

3

指導者支援



指導者向けセミナー



指導者用CD-ROM教材

Education

4

認定校制度



特別授業

教育認定校：約180校

Culture
1

文化庁メディア芸術祭



展示会場



授賞式

Culture
2

学生CGコンテスト



展示会場



作品発表

Culture
3

クリエイティブサポート



DEPARTURE dep-art-ure.jp/



メディア芸術クリエイター育成支援事業成果発表

Culture
4

展覧会・イベントプロデュース



media ambition Tokyo



道後オンセナート2014

CG-ARTS協会の教育システム

共通基盤（知識）を
持った優秀な人材を
産業界へ送り出す

就労

カリキュラム
開発

賛助会員69社、大学・企業等の
専門家の委員約300人らとカリ
キュラムを開発

合格証・認定

文部科学省後援
累計71万人の受験者と
32万人の合格者。
2014年度受験者は
15,566人

教科書・教材
出版

5つの教育領域：
・デジタル映像表現
・コンピュータグラフィックス
・デジタル画像処理
・Webデザイン
・マルチメディア
について、
・9種類の教科書
・9種類の指導者用教材
・10種類の検定試験問題集
と各種実践・応用電子書籍を
発行

検定実施

成績優秀な個人と団体に
文部科学大臣賞やCG-
ARTS協会賞を贈呈

指導者
養成・支援

指導者向けセミナーの実施

教育機関
認定

年2回の検定試験を日本全国で実施
2014年度前期（7月）148会場、
後期（11月）173会場

2014年度は185校の教育機関
を認定登録（大学・専門学校・
高校等）

対象領域の概要

● デジタル映像表現／CGクリエイター検定

映画・アニメーション・ゲーム・CM・デザインなどのCG映像や静止画、キャラクターの制作において、映像表現技術やCG理論の知識、CGソフトウェアを効果的に用いる知識の習得と評価。

● コンピュータグラフィックス／CGエンジニア検定

映画・アニメーション、ゲーム、VR、ARなどの、CG映像や静止画を制作するためのソフトウェアの開発やカスタマイズ、ハードウェアの開発を行うため知識の習得と評価。

● デジタル画像処理／画像処理エンジニア検定

工業分野、医療分野、リモートセンシング、ロボットビジョン、交通流計測、バーチャルスタジオ、画像・映像関連製品などのソフトウェアやシステム、製品などの開発を行うための知識の習得と評価。

● Webデザイン／Webデザイナー検定

コンセプトメイキングなどの準備段階から、Webページデザインなどの実作業、テストや評価、運用までのWebデザインに必要な知識の習得と評価。

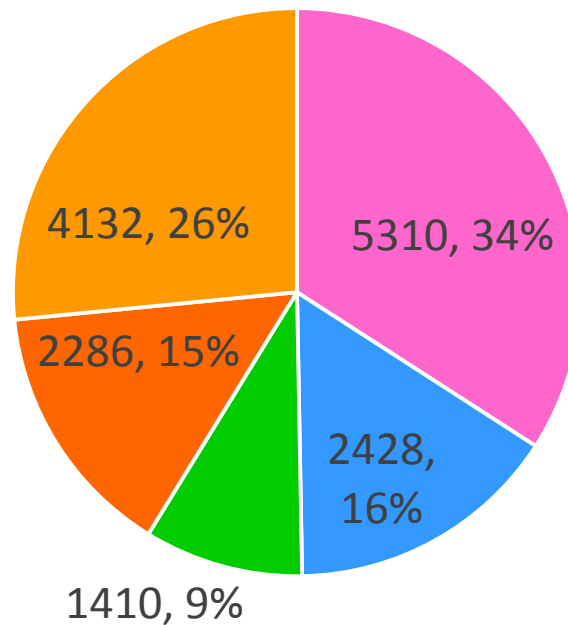
● マルチメディア／マルチメディア検定

コンピュータや周辺機器、インターネット、デジタルコンテンツ、携帯端末、知的財産権、マルチメディアの社会応用などに関する幅広い現代社会のITリテラシーとなる知識の習得と評価。

検定受験者数

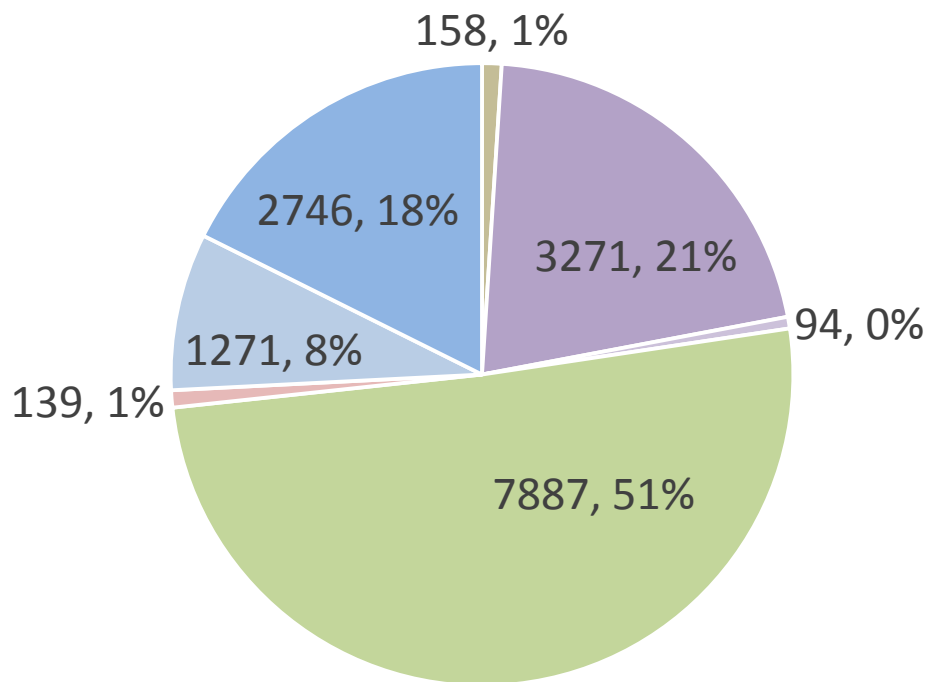
2014年度：15,566名

- CGクリエイター検定
- CGエンジニア検定
- 画像処理エンジニア検定
- Webデザイナー検定
- マルチメディア検定



検定受験者層

■ 企業 ■ 大学 ■ 短大 ■ 専門 ■ 高専 ■ 高校 ■ 個人



検定合格者の優遇など

- 大学・短大の入学試験時の優遇：63校
<http://www.cgarts.or.jp/kentei/result/passing2.html>
- 推奨企業：71社
<http://www.cgarts.or.jp/kentei/result/passing3.html>



『CGで表現する』デザイナー、クリエイターのための検定

検定試験の概要

活用分野

映画 アニメーション CM ゲーム ミュージックビデオ など

想定職種

デジタルアーティスト、CGモデラ、CGアニメータ
CGデザイナー ゲームクリエイター、グラフィックデザイナー など

CGデザイナー・CGアニメータの役割とスキル

映画・アニメーション・ゲーム・CMなどのCG映像の制作において、一定条件（シナリオ・絵コンテ・日程・予算など）のもとに、映像表現技術やCG理論の知識、CGソフトウェアを効果的に用いる能力が求められます。



『CG分野』の開発や設計を行うエンジニア、プログラマのための検定

検定試験の概要

活用分野

アニメーション、映画、VR(バーチャルリアリティ)、
MR(ミックスドリアリティ) など

想定職種

CGプログラマ、ゲームプログラマ、ソフトウェアエンジニア、
CADエンジニア、テクニカルディレクタ など

CGエンジニアの役割とスキル

産業や学術分野のさまざまな領域において、一定の条件(開発目標・システム環境・予算・作業工程など)のもと、ソフトウェアや関連するハードウェア、システムの開発ができる能力が求められます。



『画像処理分野』の開発、設計に必要な知識の習得を評価する検定

検定試験の概要

活用分野

映像通信、コンピュータ周辺機器、ロボットビジョン、製品検査
医療応用、印刷 など

想定職種

エンジニア、プログラマ、開発・研究者 など

画像処理エンジニアの役割とスキル

産業や学術分野のさまざまな領域において、一定の条件（開発目標・システム環境・予算・作業工程・コストなど）のもと、ソフトウェアや関連するハードウェア、システムの開発ができる能力が求められます。



コンセプトから運用まで 『Web制作』の知識の習得を評価する検定

検定試験の概要

活用分野

Web制作、Web運用、インフォメーションアーキテクト など

想定職種

Webデザイナー、Webプロデューサ、Webディレクタ、Webプランナ、
Webプログラマ、コーダ 広報 営業・販売 など

Webデザイナーの役割とスキル

各種Webサイトのデザインにおいて、一定の条件(コンセプト・日程・予算など)のもとに、コンセプトメイキング・制作・テスト・評価・運用を行うための、知識や技術が求められます。



ビジネスで使われる『IT知識』の習得を評価する検定

検定試験の概要

活用分野

IT関連、コンテンツ制作関連、ビジネス全般 など

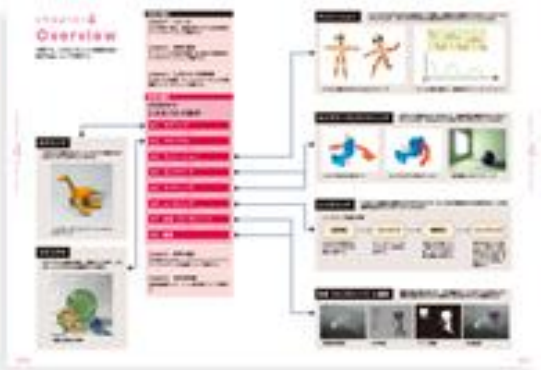
想定職種

これから社会人になる学生の方
日常業務でPCやインターネットを利用する方 IT分野に携わる方

学習者向け教材 (各領域に教科書と問題集を用意)

教科書(ベーシックレベル・エキスパートレベル)

問題集



検定試験の自己評価

① 検定実施全般の評価

- 文部科学省の自己評価シートによる年1度の確認
(実施主体、実施内容、実施手続、検定結果の活用促進、継続的な学習支援、情報公開など)

②基準となる資料類との出題問題の範囲・難易度などの整合性の確保

- カリキュラム、教科書、用語使用法、問題形式

③ 制作過程における問題の評価・修正

- 試験問題の制作工程の定型化
- 制作工程管理者、作問アドバイザー、問題作成者、解答シミュレータ、問題セット編集WGによる、立体的な問題の評価と修正

④ 試験結果からの出題問題（マークシート形式）の評価

- 設問の解答選択肢ごとの分析、受験者層別の正答率などの分析

⑤ 合否判定

- 検定種類ごとに委員会を設置し、上記④の結果と過去のデータから、合格基準点の妥当性を確認

現状の課題

① 問題の質

→試験回ごとに問題を作成するため、範囲・難易度を完全に一定にすることが難しい

② 合否判定の質

→上記①の点から、合否判定は、試験回・検定種類ごとに外部専門家による委員会で行うが、CBT（Computer Based Testing）による判定と同程度に判定することが難しい

③ CBTによる検定の実施

→教育機関の団体受験が多くそのほとんどは、一斉試験を望むため、試験環境を整えるのが難しい

→CBT運用サービスの利用は現状ではコスト高

④ 第三者評価

→出題内容に関する第三者評価は難しい

→検定実施者が出題内容の「質の保証」をするための「自己評価シート」のようなものが必要